



令和7年7月1日現在

世帯数	1,010 戸
人口	2,273 人
男	1,127 人
女	1,146 人

熱闘 松本市消防ポンプ操法大会で 第21分団が大健闘!

去る6月15日(日)、令和

7年度松本市消防ポンプ操法大会が熱い戦いの舞台となりました!

内田・寿台地区を所管する第21分団も、南部ブロックを代表して出場して参りました。実は当日朝、ある選手が腰を痛めるというハプニング発

生! 急きょ選手交代という荒波を乗り越え、見事に演技を完了! 結果は5チーム中4位でした。なんと分団から4名の「優秀番員」が表彰され、長年培った技術と団結力があつてこそその成果です。



あなたも地域を守る消防団の一員になりませんか? 興味のある方は市消防防災課(電話33-1119)までお気軽にご連絡ください! 分団長 横山 康浩 (第5町会)

内田スポーツDay



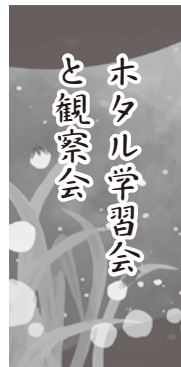
5月11日(日)内田スポーツDayが開催されました。晴天に恵まれ40名以上の参加がありました。

ウォークラリーは各チームに分かれ、普段は見逃している地域の景色も眺めながら、チェックポイントのクイズに答え、ワイワイ楽しめました。1位から3位までのチームが表彰され、素敵な景品が渡されました。

ウォークラリー終了後、ニユースポーツの体験があり、ボッチャ、モルック、輪投げなど、子どもはもちろん大人も大いに楽しみ、体育館は笑顔があふれ、笑い声が響き渡った楽しい1日になりました。

第3町会 宇原 克實

ホタル学習会 と観察会



6月21日(土)「塩沢川へホタルを見に行こう」が内田公民館主催で行われました。天気にも恵まれ夏至日の観察会となり、子ども52名保護者を含め70名程が参加しました。

出発前に「松本ホタル学会」代表 藤山静雄氏(信州大学名誉教授)から塩沢川は護岸工事をしていないのでコンクリートで囲まれていないため、草が生い茂り植物、昆虫

魚には住みやすい環境で、市内でもあまりない所です。今日見られるホタルはゲンジボタルで2週間後位からヘイケボタルが見られると説明がありました。

出発し始めると徐々に夕闇が濃くなり、ホタルが見られる期待感で川の草むらを見ながら行くと「あ、光った」「どこどこ」「飛んだ!」数匹舞い上がると「すごい、すごい」と歓声があがりました。

子どもたちから「ホタルはどうして光るの?」「ホタルの寿命は?」「世界にはどの位の種類のホタルがいるの?日本には?」等の質問があり先生は、丁寧に質問に答えました。子どもが捕まえたホタルを先生が見て、ゲンジかヘイケかオスカメスの見分け方を教わりました。

子どもたちにもホタルを通じて、内田地区にはホタルが住める環境があり、素晴らしい自然があることに誇らしさを感じて欲しいと思いました。

第9町会

堀口 千秋



内田線の本数は少ないですが、市街地まで乗り継ぎなしで行けます。皆さんもぜひご利用ください。

▲松本カントリークラブで1枚

当日は絶好のコンディションに恵まれ、さわやかな日差しの中、珍プレー、好プレー続出の楽しい一日となりました。

結果は次の通りです。

優勝酒井忍さん

第2位 清水 真さん

第3位 伊藤 宗登

ベスグロ 宮越 将さん

(第3町会)

5月19日（月）にバス視察
研修で戸隠に行ってきた。

『戸隠 忍者からくり屋敷』

まさに、からくり屋敷でした。本気度のある仕掛けがありました、子どもから大人までマジで迷い、夢中になってしまふ忍者屋敷ではないでしょうか。出られなくなった人の為に、途中で電話が設置されているので、安心してチャレンジできます。

『戸隠神社参道』

誰もが知っている「天岩戸開き神話」ゆかりの神々を祀っている神社への参道は、古の人々の尊崇の心と、それを支える膨大なエネルギーを体感させるものでした。樹齢500年を超える杉は、今も健在です。



川遊び遠足 & 草刈



訂正とお詫び

前回の記事で間違いがありましたので訂正いたします。

館報編集委員会

誤 5町会 石井 誠司

三 6町会 横山 信太郎
5町会 横山 信太郎

正 5 町会
6 町会

小ランティア会

誤
5町会

正 5町会 青

誤 新壬 宮島 崇

言
親任
今

正 新任 今井 友陞

退任 楠田 真也

つれづれ編集記

——「移住」と聞くと何を思い浮かべるだろうか——。

きつと多くの人は一大決心が必要と思うかも知れないが、私は9年前、割とサラッと決めてしまった。松本市に惹かれた理由は、北アルプスの眺望が美しい、好物である蕎麦が美味しい、高速のインターが近く神奈川の実家に帰りやすい等あった。しかし一番は直感で此処だと夫婦共に一致したからだった。

内田地区には、6年前に引越して来たが、我が家から見える北アルプスの眺望はいつでも飽きがなく、仕事で疲れていても、ふと口から「美しい」と言葉がもれるくらいだ。春の新緑の山、梅雨時期の雲の掛かった山、夏の霞掛かった山、秋の紅葉の山、冬の澄んだ空気で何処までも続いているような雪山、四季を感じる生活とはこのことだと日々実感する。何よりも夕焼けは格別で子ども達まで「空が美しいね」と言うようになつた。移住してきて良かったなと思う瞬間だ。

そんな、自然溢れた内田の魅力を、まだまだ私は知らない。この館報編集委員の仕事を通して魅力を勉強していきたいし、また皆さまにもお伝え出来ればと思います。

第6町会 石井 誠司